

## 立山 雷鳥沢・真砂岳 山スキー

---

池田

【日時】 2007年11月22日(木)～24日(土)

【メンバー】 L中村、渡辺、池田

「11月最終週なら、ケーブルカーで山に登って、スキーが滑れる。」何年か前に聞いて以来、いつかは行ってみたいと思っていた立山スキー。雪の早い今年こそチャンス！黒四ダムなど見学しながら、トロリーバスとケーブルカーを乗り継いで、ついに立山へ着いたのです。

### 【吹雪でケアレスミス】

室堂駅の鉄の扉を開けると、厳冬期を思わせる冷たくて強い風が飛び込んできます。横殴りの吹雪の中に見えるのは、点々と続くポールの列。と、とりあえずポール沿いに行くか……。何十人というスキーヤーが、一列になってポール沿いに滑ったり、歩いたり。ポールだって2、3本先くらいまでしか見えません。ふと、自分のパーティの1人が、ポールから少し離れたかと思うと、緩い斜面を下り始めました。その時、後ろから「そっちは池だ！行くな！」と叫ぶ声が。ミクリガ池へ向けて、斜面が下がっていたのに気付かず、引き寄せられるように池へ向かって行ってしまったのを、他のパーティの方が注意してくださったのです。

さらにホワイトアウトが進んできた時、かろうじて見えていた、私の前にいたメンバーの背中がふっと見えなくなりました。霧がさらに濃くなったのか、先へ滑って行ってしまったのか！？戸惑っていると、「落ちた！」と声が。瞬間的に霧が晴れ、見ると、2mくらいの崖の下にしゃがみこんでいました。幸いケガはなく、出されたお助けを掴んで登り返して来ました。

小屋に着いてからも吹雪は止まず、その日は小屋の周りで雪洞を掘ったり、弱層テストをしたり。と言ってもどこまで掘っても新雪で、弱層は見つけられませんでした。

### 【ホーホー鳥3羽】

2日目は、昨日の吹雪が嘘のような晴天。さっそく雷鳥沢目指して出発です。雷鳥沢は、ちょうど何パーティかが取り付き始めたところ。急げ！当会を代表するホノルマ



ランランナーがダッシュで先頭集団に追いつき、ついに滑り出し第一号を獲得。(山頂まで行かないで、途中から滑っただけなのですが・・・)。1列になって登ってくるスキーヤーの羨ましそ～(だと思う)な視線を浴びながら、今シーズン初のホーホーを連発。



滑って登ってを繰り返していると、私たちのシュプールを追うかのように、次々とスキーヤーがやって来ます。それを逃れて、隣の尾根、隣の尾根、と移動しながら滑って遊んでいるうちに、ふと気が付くと、け

っような急斜面を目の前にしていました。落差は大した事ないのですが、雪の状態が、イヤな感じ・・・。結局1人ずつ、不安定な雪の斜面をトラバースした後、部分的に凍った急斜面を下りました。一人転んで、少し滑落。

沢の渡渉を経て(さすがに渡渉にまでついてくるスキーヤーはいなかった)、小屋に戻ると、先ほどの斜面を眺めながら雪の上で乾杯。満たされます～。

#### 【大人の判断】

最終日は3連休の中日。小屋もキャンプ場も満員で、目指す真砂岳は、朝、小屋を出た時にもうすでにシュプールがついていました。真砂岳は昨日の雷鳥沢より斜度があります。山向きキックターンが時々怖い・・・でもあまりに人がたくさんいるので、山にいる気がしません。

今回もアイスパーンであろう山頂は却下して、適当なところから滑り始めました。やや重めの雪ですが、斜度があるので十分楽しめます。

その日は粘らずに早めに室堂駅に戻り、渋滞を避けて都内に戻ってきました。

#### 【珍しく反省】

ケガは無かった山行ですが、その可能性は何度かあったと思っています。初日、ホワイトアウトの中、池や崖へ流されてしまった事。2日目、斜面をトラバースすることになった事。その時ピットテストもしなかった。また、アイスパーンを避けるために山頂には行っていませんが、アイスパーンでも確実に滑れるべきだと思います。今シーズンは楽しいだけじゃない山スキーを目指します。

【行程】 11/22 室堂駅(10:30)～ロジ立山連峰小屋(11:45)

11/23 出発(8:00)～雷鳥沢2650m付近滑り出し(10:30)～小屋(14:50)

11/24 出発(8:00)～真砂岳2570m付近滑り出し(10:12)～室堂駅(12:23)

【地図】 立山、劔岳